



中橋 友子 議員  
(副議長)

**問**

「地球沸騰化」と言われるまでに気候危機は進行している。幕別町では危機打開のため、今年3月に「ゼロカーボンシテイまくべつ」を宣言、2030年までに二酸化炭素の排出を46%削減する「幕別町地球温暖化対策実行計画」を策定し、具体化に踏み出した。町あげての一大事業であり、町民と一体となった事業の推進が要となる。実現に向け、次の点を問う。

- (1)計画の住民周知と協力について
- ①計画策定における住民の声の反映は。
- ②住民周知と協力の手立ては。
- ③環境家計簿の普及を。
- (2)二酸化炭素46%削減の具体的政策について
- ①公共分野の取組は。
- ②個人事業者、住宅の太陽光発電機器設置の支援策は。
- ③再生可能エネルギーの取組は。
- ④森林吸収、都市緑化の取組は。
- (3)十勝圏での再生可能エネルギーの取組は。

**問** ゼロカーボンの推進について

**答** 国や北海道と歩調を合わせ、「ゼロカーボンシテイまくべつ」の実現を図っていく

**町長**

(1)①町民および事業所へのアンケートや、次代を担う小中学生、幕別清陵高校の高校生から意見等を伺うとともに、町民説明会やパブリックコメントを実施するなど幅広く意見を伺い、計画を策定した。②町消費生活展において、計画案の講座とパネル展示での説明を行った。また、町広報紙に特集記事を掲載するなど周知に努めた。

今後は、「まくべつ夏フェスタ」の会場で「幕別町ゼロカーボンロードマップ」を紹介するとともに、再エネ・省エネ機器等の展示会を事業者の協力をいただき実施するなど、住民の理解が深まるよう取り組んでいく。③昨年広報10月号で、北海道が開発したアプリ「北海道ゼロチャレ！家計簿」を紹介した。温室効果ガスの排出量を見える化することとは、行動変容につながることから、引き続き普及を図っていく。

での期間を大きく3期に分けて施策の推進を図ることとしている。第1期の3か年では、「ゼロカーボン推進総合補助金」の創設と、公共施設等の照明のLED化、本庁舎等へ太陽光発電施設を整備する。また、「家畜バイオマスプラント」の事業化に向け引き続き検討していくほか、公用車の省エネルギー化として「EV車」と「PHV車」の導入を進めていく。

第2期の4年間は、総合補助金の継続実施とともに、十勝ナウマン温泉ホテルアルコ等へ太陽光発電設備の導入を図り、再エネ導入を加速化していく。

第3期は、新たな技術等を導入した事業を推進する期間と定めており、今後の国や北海道におけるゼロカーボンに対する推進策と歩調を合わせ、「ゼロカーボンシテイまくべつ」の実現を図っていく。④「幕別町森林整備計画」に基づいて計画的に森林整備を行っており、本年度は町全体で172ヘクタールの造林を予定している。

都市公園については、「幕別町緑の基本計画」に示すとおり現状の都市公園の緑化面積を保全していくことにより、都市緑化の維持・保全に努めていく。

(3)各市町村の取組状況が異なることなどから、十勝圏が一体となり再生可能エネルギーに対して取り組むことは難しい状況にある。

**問** ごみ焼却の減量化を

**答** 可能な限り資源化し、ごみ減量化の促進に努めていく

**問**

世界ではゴミは焼却せず資源化が趨勢(すうせい)である。幕別町でも生ごみなどは資源化し、CO2の排出を削減すべきであるが、町の考えは。

**町長**

焼却するよりも資源化する方が処理費用は高額となるが、地球温暖化対策において、ごみの資源化を一層進めなければならぬことは言うまでもない。可能な限りサイクルにまわし、可燃ごみを極力減らすことを基本としつつ、生ごみを原料とする液化バイオメタンを生成するためのバイオガスパラント建設に向けて協議を進めてきたところであり、ぜひ実現したいと考えている。